

# 仙台司教区

# 教区事務所だより



(第 25 号)  
昭和54年11月1日

仙台教区の歩みと共に五十年……

## ※ 島田実師 司祭叙階金祝と喜寿を祝う

10月10日、秋晴れに恵まれた国祭日のよき日、かねて準備をすすめていた島田実師の司祭叙階50周年と喜寿の二つの祝いを共にするため、記念ミサと、祝賀会が、多数の関係者の出席を得て行われた。

まず午前11時より、佐藤司教臨席のもとに島田師を中心に17名の司祭による共同ミサが荘厳に行われた。ミサ曲は、デ・アンジェルスを中心に歌われ、元寺小路の聖歌隊と教会音楽の集いのメンバーによるオーケストラ演奏は、この記念ミサを荘厳にかつ祝賀の心を一層高めるものであった。

ミサの説教は、島田師と同時代に共に活躍した小野忠亮師によりなされた。小野師は、敗戦の色も濃くなった昭和20年7月10日、元寺小路の司教座聖堂が灰燼に帰した時、島田師が副司教として仙台教区内の各神父にあって

て送った書簡を、候文の原文のまま紹介しながら、同師が戦時下に当たって、いかに賢明適切な指導を行ったかを話された。又終戦後、カトリック学校を、北海道、東北各地に招聘した時の苦心談にも及び、戦中・戦後の仙台教区を守り育ててくれた当時の若き島田実師の活躍を目のあたりにし、参集者一同深い感銘を受けた。

ミサ後、会場を読売会館ホールに移し、盛大な祝賀会が行われた。当初、準備委員会では、百数十名の出席を予定していたが、申し込みが続き、当日は、二五〇名余に及び、ホールは、人の波で埋まった。

祝賀会は、一本杉教会の田原武氏の司会で進められ、佐藤司教の温かいお祝いのことは皮切りに、各代表の祝詞が続いた。

教区司祭団からは齋藤石雄師が代表して、

島田師の助任をしていた頃の数々のエピソードを、ユーモアたっぷり語られ、祝賀会のふんい気を一気にやわらげた。

その後花束、記念品贈呈、YBUからの感謝状贈呈があり、佐藤直助氏の音頭で乾杯、祝宴に入った。祝宴中、動きもとれない程の人の波をかきわけて、島田師は、一人一人にあいさつしてまわられ、人情神父、温かい人柄といわれるゆえんを、この会場でも示してくれた。

終わりに出席者一同、次は米寿の祝いに集まろうと約し、この老神父の健康を聖母マリアに託し、「みははマリア」を共に歌い、祝宴を閉じた。

## 司教様の日程

(10月15日現在)



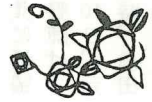
- 11月3日 大船渡教会献堂25周年記念式典
- 6～8日 臨時司教会議
- 11日 四ツ家教会堅信式
- 12日 司祭評議会
- 14日 社会福祉法人理事會
- 18日 八戸塩町・鮫教会合同堅信式
- 22日 四国聖ドミニコ会来日75周年記念式典
- 23日 高松司教区創立75周年記念式典



ドミニコ会雪の聖母修道院

(福島県)

『創立十周年』を祝う



説教者団厳律観想修道会雪の聖母修道院では、去る9月29日(土)午前11時より創立10周年記念ミサと、名古屋布池教会出身のSr山口八千代の着衣式が行われた。

記念ミサは、佐藤司教司式によって、この10年間援助を受けた各方面の恩人方のために捧げられた。

福島県にドミニコ会雪の聖母修道院が創立されたのは、一九六九年9月29日聖ミカエルの祝日である。盛岡のロザリオの聖母修道院から2名、名古屋の瀬戸聖ヨゼフ修道院から4名、計6名のシスター方によって創設されたのである。最初の住まいはSr斎藤の御両親の家の倉を仮り住まいとしたが、やがてこのお二人を次々と天国に見送った後、倉住まいを終え、方々土地探しの結果、現在の磐梯町に居を定めることとなった。歴代の司教様方、ガダルベ会の神父様方、無原罪聖母会のシスター方、会津若松教会の信者方をはじめ、多くの方々の配慮と協力によって、一九七五年11月新修道院の落成式を見るに至ったものである。

それ以来、雪の聖母修道院は、祈りの家として、土地の人々にも認められ、各地からの聖心に捧げられた聖堂を訪問する人の数も多くなっている。

教会の心である祈りと労働を通して、生涯

を献げるこの修道院を与えて下さった主の御業を、ほめたたえたい。

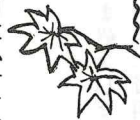
※祝

巨理カトリック教会落成

去る9月22日(土)午後一時半より巨理カトリック教会(主任、高田徳明師)の落成祝別式が行われた。巨理教会は老朽化のため、今年6月新築工事が始められ、この日、新しい聖堂、司祭館、信徒館の落成を見たものである。佐藤司教の司式で多数の司祭、修道者、信徒の出席の下で祝別式が行われ、式後、百名近い出席者は、幼稚園ホールに席を移し、祝賀の宴で、この喜びを祝った。

第八回三教区合同

司祭研修会開く



去る昭和54年9月18日から20日にかけて、二泊三日、栃木県那須高原、ビューホテルにおいて、仙台、新潟、浦和の三教区合同司祭研修会が開かれた。三教区から約80名の司祭が参集。「信仰の生涯学習—まず司祭から—」というテーマの下に熱心な学習が行われた。

これは、信仰というものは、信徒・司祭を問わず生涯かけて学び深めるもの、公教要理や神学の課程を終わっただけで事足りるとすべきものでない、という認識の下に企画されたもので、小教区レベルでの信徒・司祭の生涯学習の可能性について、又、生涯学習によ

る信仰の家庭に、職場に、社会に生きる可能性について論議された。

今回の研修会の特徴の一つは、従来の中央から講師を招聘し講義を聴く形に代えて、小教区で宣教司牧の現場で働く司祭の中から発題者を選び、その提起に基づいて論議が行われたことである。

第一提題 キリスト教信仰における生涯学習の意味と必要性 浦和教区 犬飼政一師

第二提題 教会活動における信仰学習の可能性 仙台教区 高橋 昌師

第三提題 信仰の実践と信仰学習 新潟教区 鷲尾正平師

お互いに、身近な、又、日常取り組んでいる問題であるだけに、身の入った論議が行われ、成果をあげることができた。

この三教区合同司祭研修会は、公会議開催直後、仙台、新潟、浦和の三司教が、公会議の精神をよりよく理解し、又、隣接教区の司祭間の親睦を深めるのを目的として合同研修会を開くことに合意し、昭和40年松島において第一回の研修会が開催されて後、三教区が輪番で当番教区となり、隔年毎に開催されて、今回は第八回目を数えるに至っている。

教区を超えた地域レベルの司祭研修会が恒久的に行われているのは全国でもユニークなことであり、その存在の意義の再認識が望まれる。



第三回 秋田、青森、岩手 三県  
カトリック信徒交流会開催

去る8月18・19の両日、岩手カトリック・センターにおいて、三県カトリック信徒交流会を開いた。午後4時30分より秋田本荘教会の及川神父の挨拶、出席者は、70名だった。早速4分科会にわかれ、主題「福音宣教」について討論した。その中で、反抗期の子供を持つ親の心得として、何が大切か、又、家庭集会におけるテキストとして、オリエンス発行の中学生用テキストが、わかりやすい、とか、若者の発言では現代の教会に若者を引きつける魅力がない等、現実的な発言が次々と時間少なしばかり飛び出てきた。第二日目は、ツィゲル管区長の講話「言葉より先に心のよるこびは確かな福音宣教」と題して、クリスト者は喜びと希望であるべきだ。聖霊の光にたよることのできる人は喜びを得、正しい福音宣教ができる、との内容豊かな愛の講話であった。

夜も、それぞれのかくし芸を披露するなど親睦を深め、次回の再会を約束して会を閉じた。 (水沢だより9月号より)

福島県カトリックのつどい  
『国際児童年』をテーマに  
今年10周年をむかえる「福島県カトリックのつどい」は、年間を通して記念行事を行って

いるが、去る9月15日「子どもと共に、子どものために考える」のテーマで講演と話し合いが、郡山ザベリオ学園で行われた。

午前中は、ノートルダム修道会の木村きぬえ姉の講話と、スライド「きいてよね、みんな」を見た後、昼食をはさんで約二百名が6つの分科会にわかれて話し合われた。

午後は各グループの発表があり、終わりに、この10周年の歩みを感謝して、佐藤司教司式による感謝の祭儀が捧げられた。ミサ中の献金は、難民の子ども達のために送られた。

☆☆  
星空の下  
夜間ハイク



去る10月9日の夜、かねてからの計画のとおり、第一回仙塩地区夜間ハイクが行われた。危ぶまれた天候も、青年達の熱気で吹き飛ばされ、満天の星空となり、ハイキングに最適な天候となった。

参加者は総勢56名、中学一年から50代までの年齢層にわたった。集合場所の塩釜教会で簡単な説明があった後、5つのグループに分かれ、午後10時過ぎ出発した。途中住宅街では、異様な行進に飼犬が次々と鳴き始め、犬のコーラスに追いかけられたりした。

午前1時ごろ、県民の森で休憩を取り、はるか仙台、塩釜の街の灯をながめながら歌を歌い、ロザリオの祈りをし、この体験を喜びあった。その後一路仙台へと下り、歩きながら人生を語る者、お互いの悩みを話し合う者、

ロザリオで祈る者と、初めて出会った人達も打ちとけ合い、25kmという長路も気にならないう程である。東仙台教会前で小休止を取り、いよいよ目的地元寺小路教会に向かう頃には、夜も明けそめて、ピンク色の朝焼けの空をおおきながらのラストスパークである。

朝6時には全員が元寺小路教会に到着。青年有志によって準備されたぶどう酒でまず乾杯。おにぎりともそ汁もあつという間になくなってしまった。

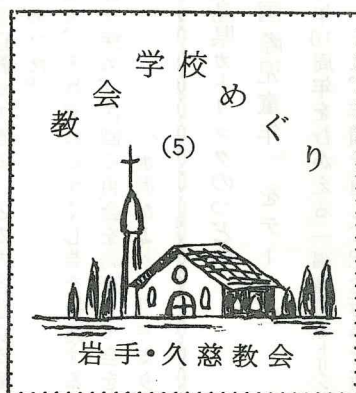
早坂養吉医師が万一の場合にそなえて、梅津明生師の運転する車で終始行動を共にしてくれたが、病人が出なかつたのは幸いであった。このプランの責任者である笹気直哉師は今回を第一回とし、第二、第三の夜間ハイクが若者達の手で計画されることを望んでいる。

鐘楼ぬりかえ

—久慈教会—



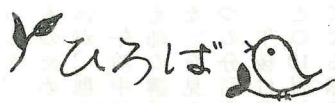
久慈教会の鐘楼の塗りかえが、去る7月21日から始まり、8月18日落ち着いた色に塗り上げられた。費用は約30万円で、教会の積立金と寄付、及びバザー収益等でまかなわれた。9月16日、鐘楼塗りかえ記念のお祝いが行われ、ミサ後集まった人々一人ずつが鐘を鳴らし、ぶどう酒とおでんでよろこびを祝い合った。これから再び、アンジェラスの鐘が、久慈の町に鳴り渡ることだろう。



私たちの教会学校は土曜日に行っているの  
で土曜学校と呼んでいます。小さい組(低  
学年10名)大きい組(高学年10名)の2クラス  
で、11時、3時5時を私一人で行います。  
主に典礼にそったやり方ですが、間に日本の  
行事をキリスト教化し取り入れていきます。夏  
休みの二泊三日の修養会は子供たちの喜びで、  
いつも七夕を中日に入れて組み、三回宗教の  
勉強と制作の時間を取ります。その年のテー  
マがあり、神父様が先生を指導してくれま  
す。教会学校(中学生10名)も一クラスで、  
昨年はそれぞれ別のたとえ話でした。先生か  
ら話を聞き、スライドを見たりして、制作に  
粘土・絵で各名場面を描き、最後に寸劇にし  
て各クラスが演じます。二日目の夕方は、浴  
衣を着て町の七夕に出かけ、泊まる部屋ご  
とのグループで、狭い町で何度も行き会い、楽  
しいものです。帰ってきて園庭でちょうちん  
行列です。  
今年には日にちの都合で七夕がはずれ、テ

マをマリア祭にし、マリア様の生涯を9つに  
分け、各クラス3つずつ勉強し、それを絵に  
したりしてみこしを作り、近所を一周し園庭  
を歌って回りました。三日目は小学校の水泳  
指導の先生をたのんで、貸切りバスで一時間  
位の海に行きます。炊事はお母さん達にお願  
いし、幼稚園の先生にも手伝ってもらいます。  
今までに一つだけ特別の行事は、聖年の年  
から三年間、岩手の教会を一泊二日で巡礼し  
た事です。貸切バスで他の色々の教会で祈り、  
久慈教会以外の教会に接した事は、子供たち  
にとつて大きな驚きと喜びだったようです。  
夜はちょうちん行列をし、二日目はブルーカ  
海に入り、きびしい日程でも子供たちは最後  
まで元気でした。

目立つ行事だけ紹介しましたが、10年やっ  
てきた今でも、教会学校とは何か? 小学生  
(未信者)にキリストのなをどう伝えるか、  
今もって悩みながら行っている状態の久慈教  
会です。  
(久慈教会伝道婦 玉置)



マザー・テレサのスライドを見て  
(八木山日曜学校の  
子ども達の感想文より)  
\* わたしは、はじめてみただ、  
びっくりしました。マザーさん  
は、とてもこころのやさしいひ  
となんだなとおもいました。  
わたしは、もしも、そういう  
ひとにあったら、たすけてあげ  
たいと思いました。(三年)

聖書を知ること  
は  
キリストを知ること  
『聖書週間』 11月18日~25日

家庭に福音を、聖書を知ること  
はキリストを知ることをスローガンに、今年も11月  
18日から25日までを聖書週間とすることがき  
まった。教区、小教区、各家庭で、日ごろ、  
なれ親しんでいる聖書を、違った角度から学  
び味わうチャンスとしたい。

家族それぞれ持っている聖書を持ち寄っ  
て茶の間で聖書展示会を開いたらどうだろう。  
家族の一人一人が自分の好きな聖書のこと  
ばを持ち寄って、この日だけはテレビのスイ  
ッチを止め、夕食後に分かち合いをしたらど  
うだろう。

聖書に登場する人物をあてる聖書クイズを  
作り夕食後のお楽しみ番組にしたらどうだろう。  
家庭に福音を、身近なところから聖書に  
親しむことを、おすすぬしたい。

\* どうして、おんなじにんげんなのに、に  
んげんらしいあつかいをしないだろう。  
わたしたちは、いえにかえるとレイゾーコ  
にちゃんとアイスやおちゃなどがあるけれど、  
は、よいしてくるひとがいないから、  
かわいそうだ。(二年)  
\* かみさま、おんなじにんげんなのに、み  
ずがめなにかわいそうなひとをたすけて  
ください。(二年)

上  
紙  
テレフォ  
ン  
サービ  
ス



11月は、カトリック教会では死者の月として、特に亡くなった方々のために祈り、また私達自身の死について黙想する月でもあります。

さて、近身者が亡くなり、カトリック教会で葬儀をしたいと思う時は、案外、具体的な事でわからない点が多いものです。それで葬式について土井文雄神父様に伺ってみました。  
葬式について

1. 臨終の時、小教区の司祭に連絡する。家族は、病者のそばで祈る。
2. 亡くなった時、司祭が不在の時は、家族が神のあわれみと、ゆるしを願う祈りをする。
3. 同時に、司祭又は墓地委員は、おもだった信徒と相談し、葬儀の手配をする。葬儀社に頼む時、キリスト教にふさわしいよう、指示する。
4. 家族は、死者の体を清め、ふさわしい衣服を着せる。
5. 納棺の時、司祭も同席し、祈りながら行う。
6. 葬式については次のことを司祭と相談する。  
イ 取り  
ロ 規模（近親者の密葬、普通の葬式、社葬等）

ハ場所（聖堂、家だけ、斎場等）  
ニ式の順序を打ち合わせる。

ホ費用（例として仙台の取決めを紹介する）  
死後の折、通夜、葬儀ミサ、埋葬（含火葬）教会への献金を一括して四万円以上  
侍者、先唱者 一人につき 二千元以上  
オルガニスト・聖歌隊グループ  
各々 五千円以上

埋葬人夫 遺体 人夫一人 八千円

遺骨 人夫一人 五千円

（荒天時、一人につき千円増）

その他、世話になった方に適当な方法で謝意を表わす。

（墓地の手配（カトリック墓地、一般墓地）

ト死亡届等（葬儀社が代行してくれる。）  
会葬者への礼状、ご絵の印刷等

7. 法事等をするか否か

8. 故人のミサは、死後三日、七日、三十日とか、三十日連続のミサがある。（仙台では、三十日間の謝礼は、十二万円以上。三、七、三十日目は、各三千元以上）

9. 年忌ミサ（仙台では、謝礼五千元以上）

§ § § § § § § § § § § §

花は黙って咲き黙って散って行く

そして再び枝に帰らない

けれどもその一時一処に

この世のすべてをたくしている

一輪の花の声であり一枝の花の真である

永遠にほろびぬ生命のよるこびが

悔なくそこに輝いている（柴山全慶）

§ § § § § § § § § § § §

25年の地道な聖書研究の成果  
待望のカトリック新約聖書誕生!

# 翔べ、小鳥たち。

フランシスコ会聖書研究所訳注 新約聖書

中央出版社

●聖書の原典の味わいを今日の人々に伝える ●日本語の響きを大切に流れるような訳文 ●聖書の理解を助ける良心的な注解・伝統ある聖書研究が生み出した今日の名訳・便利なお見出し付き ●だれでも読める総ふりがな

B6判・上製(黒・エンジ・青)・976頁・1,700円

11月1日発行

販売元／中央出版社 東京都新宿区四ッ谷1-2 ☎357-6401 女子パウロ会 東京都港区赤坂8-12-42 ☎479-3941

第5回司牧評議会定例会が、去る9月24日(月)午後1時から仙台・元寺小路教会・信徒館にて開催された。

はじめに佐藤司教から司牧評議会が果たす役割の重要性について話しがあり、続いて次の三点について話し合われた。

(一) 家庭における子供の信仰教育について

各家庭で、どのような信仰教育がなされているかと問われてみると、ほとんどの家庭が困惑の色を隠せないようである。しかしそうした中であっても少しずつ話し合われ、子供に信仰を伝えるには、まず親の再教育ということの重要性、とりわけ家庭で祈ることから出発しなければならぬというところが再認識されたようである。特に岩手地区では、三歳までの期間が大事であると捉え、「子供のための手引書」作りを現在行っている。

### 仙台教区を考へる — 第5回司牧評議会 —

(二) カテドラテイクムの増額につらて

教区内の司牧、宣教活動が、ますます活発になるためには、経済的な基盤が固められなければならないということから、教区本部会計の重要な収入源であるカテドラテイクム(小教区の維持費、献金の7%を教区への納付金とするもの)を増額させていただきたいとの要請である。これに対して、各地区ともその意向をくみとり、リテ

ドラテイクムの増額が了承された。(三) 司教座聖堂、およびその周辺の整備、再建について

現在の司教座聖堂の老朽化や、今後教会の建物が果たしていかなければならない役割といたったことから、その整備再建が問題となってきた。こうした事情をよく捉え、整備再建ということが、教会全体の問題であり、かつ、信徒の方々と共に考え、充分な意志疎通をはかりながら煮つめていきたいということが話し合われた。

なお、出席者は次のとおりである。

司 教 佐藤千敬

総代理 土井文雄 書記長 吉田昌民

司祭代表 レイモンド・デロッシュ、マックス・エン

デル、豊田政夫、高橋昌、渡辺

彰宏、アンブロウズ・モレン、ホセ・

モンロイ、フェデリコ・エレラ

司教直任 笹気直哉

信徒代表 (青森)富樫良造、藤村重実

(岩手)佐藤 淳、菅原庄一

(宮城)和野邦義、佐藤正一

(福島)古田繁男、成田 信

事業担当修道会代表 (福祉)石井恭一

(教育)大野俊子、(出版)原勝子

教区長直任 猪岡修一(信徒連絡協議会)

なお、司牧評議会とは、仙台教区の各方面

代表よりなる司教の諮問機関として重要な役

割を持っている。仙台司教区の宣教司牧につ

いての意見要望は、それぞれの代表者を通し

てこの司牧評議会で討議することができる。

吟行

### 蔵王への旅

富士寒子

(職員大勢の見送りを受けて観光バスにて、午前九時十分、宮城県立名取病院を出発)

見送られもみじ蔵王へ旅立ちぬ

秋風に乗ってガイドの声ひびく

山々に囲まれた里梨の園

蔵王町バスの行く道狭すすき

バスあえぐエコーラインは赤そぞめ

不動滝山また山はうすもみじ

刈田岳秋気きよく人の群れ

(さいのかわらで楽しい昼食をとる。広々と

した高原で珍しい高山植物に目を見張る。

売店を参観したり高原を散歩したり、さわ

やかなひと時を過ごす。)

さいのかわら おにぎりうましススキゆれ

川崎町コスモスの花咲き乱れ

釜房湖秋空高く水清し

帰院せりみんな元気で秋の旅

(筆者は巨理教会所属 ベトロ佐々木

正三郎 県立名取病院で長期療養中)

1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1

仙台司教区事務所だより第25号

昭和五十四年十一月一日発行

発行所 仙台司教区事務所

980 仙台市本町一丁目2番12号 TEL 0222 22 7371

